

## 令和元年度 第2回 新潟市立西川図書館協議会 議事概要

---

日 時： 令和元年12月25日（水） 午前9時半～

場 所： 西川学習館 研修室B

出席者： 新潟市立西川図書館協議会 澤口会長，石井副会長，松井委員，武藤委員，  
笠井委員，福島委員，新保委員  
事務局 祖父江西川図書館長，小林主査，齋藤副主査，神林副主査

---

### 1 館長挨拶

### 2 議事

#### (1) 平成30年度 決算および図書館事業最終報告について

(事務局) 案件概要説明

(新保委員) 潟東図書館で行った本の福袋はとてもよいイベントだった。他の館でもできないか。

(事務局) 検討したい。似た事業として岩室図書館で「ガチャ本」を行った。

(石井委員) 図書館でのおはなし会に参加するとスタンプなどもらえて、子どもたちも喜んでいる。

(事務局) おはなし会でスタンプカードを配布し、リピーターを増やす工夫をしている。

(澤口会長) 「うちどく」とは何か。

(事務局) 「おうちでどくしょ」の略で、家庭で読書を楽しむこと。

和納小学校をはじめ、学校単独で取り組んでいるところもある。

(石井副会長) 中学生は小学生より読書量が減るので、うちどくシートなどが本を読むきっかけになってよい。

(武藤委員) 中学校では朝読書をしているが、図書館の本ではなく私物の本を読む生徒も多い。朝・昼休みに読書をしている生徒も多く、家庭では電子書籍を読む子どももいる。図書館の貸出冊数から読書量が減ったとは言いきれないのでは。

(笠井委員) 資料購入費が減少しているとのことだが、来年度の見通しはどうか。

(事務局) 来年度もさらに減額の見込み。資料購入費は図書館の根幹として非常に重要だと認識している。

(笠井委員) 利用者のニーズに答えられなくなると、「図書館は昔の本しかない。」と思われるのではないか。

(事務局長) 新潟市の資料購入費は他の政令指定都市に比べると比較的高く、予算の削減を求められている。全館で効率的な購入を進めていく。

#### (2) 平成30年度 図書館評価について

(事務局) 案件概要説明

(武藤委員) 各校でタブレットの整備を進めている。文科省は児童1人1台との方針だが、市内では費用の問題もあり遅れている。子どもたちはタブレットに慣れており、操作も早い。前任校では調べ学習の際、司書を通して図

書館に依頼をしていたが、本は持ち運びも大変。他校と依頼時期が重なると借りられないこともあった。

- (石井副会長) そのような状況に図書館が対応していく必要があると思う。ひまわりクラブでは年に4回程団体貸出を利用している。社協を通してゆうパックで借りられるようになり、便利になった。図書館としてもひまわりクラブや幼稚園保育園などの団体に貸出をシフトしていったらどうか。
- (笠井委員) 学校図書館支援センターについて。学校図書館が充実したので図書館への支援要請がうすれてきていると理解すればよいか。学校図書館支援センターを通して公共図書館と学校図書館の連携を図るとのイメージだったと思うが、それが崩れかかっているのではとの恐れを感じる。
- (松井委員) 学校図書館支援センターの職員が年に2回学校訪問してくれており、公共図書館との連携は評価できる。学校図書館からの依頼数については、単元によって学校図書館の資料で済むこともあるので、その年の単元により、多少の増減はありうるのではないか。
- (笠井委員) 学校図書館支援センターは一定程度、有効に働いていると理解してよろしいか。
- (事務局) 各学校の司書が学校図書館の整備に尽力している。その年の授業テーマにより、学校図書館の本で足りることもあるので、依頼数には波がある。タブレットの活用が進んでいることも依頼が減った要因と感じる。
- (松井委員) パソコンの検索機能は非常に優れており、図書館の百科事典で調べるといようなことは減る傾向にある。
- (澤口会長) インターネットの情報が正しいかどうか見極めることも大切。大学生も大学図書館を利用する機会が減った。インターネットは便利だが得られるのはピンポイントの知識で、体系的な理解に結びつかない。学生の知識が断片的になっていると感じる。
- (武藤委員) 中学生から「本を読もう」と言っても難しい。幼い子どもへのアプローチが効果的だろう。
- (松井委員) 親が読書をする姿勢を見せることや、家族で図書館に行く機会をもつこと、親子で「この本おもしろかったね。」と会話をするのが大切だと思う。
- (事務局) ブックスタートは次年度で10年目になる。3冊の絵本から1冊を選んでプレゼントしているが、絵本がある家庭とない家庭の温度差を感じる。幼児から高校、大学まで読書をとぎれさせないようにしたい。
- (新保委員) 資料購入費について。新聞や雑誌は購入ではなく寄贈にできないか。
- (事務局) 図書館の使命として資料をまんべんなく揃える必要があるので難しい。雑誌のスポンサー制度も取り入れている。
- (新保委員) 新聞の購入費はどれくらいか。
- (事務局) 西川図書館では7紙あり、月に1タイトル3~4千円。
- (新保委員) 中央図書館でも新聞の種類が大変多いが、必要性があるのか疑問。また司書のスキルアップとはどのような研修内容か。
- (事務局) 県立図書館が主催の障がい者に対する図書館サービスの研修やレファレンス研修を受けた。

(澤口会長) 郷土資料の貸出数が増えたのはよいこと。大学生も郷土のことを知らない学生が多い。図書館に郷土資料を置くことは大切だと感じる。

(3) 令和元年度 図書館事業中間報告および令和2年度取組素案について

(事務局) 案件概要説明

(福島委員) 図書館だよりは各家庭に配布しているのか。図書館で土日に催しがあることを知らない人も多い。

(事務局) 各家庭には配布していないが、地域の茶の間やスーパー等に配布している。図書館での催しはHPやフェイスブック、チラシ等で広報している。

(新保委員) 貸出履歴が見られないのはなぜか。

(事務局) 貸出履歴は重要な個人情報であるため残らないようにしている。

(4) その他

第二次新潟市立図書館ビジョンおよび第三次新潟市子ども読書活動推進計画の  
パブリックコメントについて

(事務局) 案件概要説明

【事前配布資料】

■次第

■平成30年度事業報告および評価関係

資料1 平成30年度西蒲区図書館決算報告

2 平成30年度実施事業

3 図書館協議会における図書館評価について

3-1 平成30年度新潟市立図書館施策・事業評価シート

3-2 平成30年度新潟市立図書館指標別評価シート

■令和元年度事業中間報告および令和2年度取組素案

資料4 令和元年度事業中間報告(10月末現在)

資料5 令和2年度西蒲区の図書館の主な取組素案

【当日配布資料】

座席表

国際学習到達度調査(読解力)参考資料